

◎本会の動き◎

☆2024年 第50回経営ゼミナールに参加して☆

今回参加させて頂いた経営ゼミナールは、化学工学会が提供する技術者の生涯学習の一環として1975年から続く歴史あるゼミナールです。今年は節目となる第50回目を迎え、「シン・社会へのリジェネレーションを起こせ！～自らを変え、変革の波を創る～」をテーマに化学会社、石油会社、エンジニアリング会社などのマネジメント層を中心に45名が参加いたしました。

ゼミナールは8月から11月にかけて4回のセッションで進められ、各分野において著名な講師の方々によるテーマに沿った講演とグループ討議で構成されておりました。初回の東海セッションとなる8/30は台風10号の到来による東海道新幹線の不通などの影響でごく一部の方を除き急遽オンライン開催となりました。第2回目以降はすべて対面となりましたが、初回に会えなかった分、より親密なコミュニケーションがとれた会になったような感じがしました。



さらに、今回は50周年記念を祝しまして、第4回目の幕張セッションの2日目においては歴代の経営ゼミナール受講生をお招きする形で98名での特別講演の聴講ならびに交流会を実施し、世代を超えた交流も行える場となり非常に意義深い会となりました。

グループ討議はまず第1回セッションに於いて事前アンケートに基づいて同じテーマを課題と考えているメンバーを中心に6グループに分かれ、各自の悩み、課題について共有し合い、各グループで解決すべき課題を設定しました。第2回、第3回セッションでは、課題解決のヒント探しとして、ランダムな人選でグループ

を構成し、「組織のあり方・リーダーシップ」「イノベーションにどう挑むか」「人材育成・モチベーションアップ」「変革マインドをどう育てていくか」「社会問題にどう対峙していくか」をテーマに多くの意見交換を行いました。



最終セッションでは第1回セッションのグループに戻り、これまでのセッションで得た知識や気づきを基にディスカッションを行い、第1回にて設定した課題の解決に向けたグループ毎の決意宣言をまとめ上げ、発表ならびに活発な質疑応答がなされました。

我々のグループでは、VUCA時代における著しい環境変化の中でも成果を出すために、組織全体のパフォーマンスをいかに向上させるかについて、人材確保の難しさ、働き方の変化や価値観の違いを理解しつつ、組織を運営する上で自分たちが今後何をすべきかを中心に話し合いました。セッション毎に頂いたアドバイスや各職場に戻っての対話などを通じ、考え方は様々あるものの、個人の能力を最大限に引き出すために1on1などを通じたコミュニケーションを大切に、多様性を尊重した肯定的雰囲気づくりを行い、さらにリーダーとしてチームメンバーに腹落ちのするVisionをしっかりと示していくことを決意宣言としてまとめることができました。



異業種・職種（製造技術、設計、研究、営業、人事）の参加者との討議を通じて、共通の悩みや問題点を共有し、自社と他社の違

いに気づく貴重な機会を得ました。各々が自分自身に足りないところを理解し、こういうことを行動してみようという気持ちになり、心に火を灯してくれるような刺激のある会となりました。さらに、セッションの回数が増えるたびメンバー内での交流も深まり、セミナー終了後もお互いに連絡を取り合う形で、会社の垣根を超えた形での人脈形成ができ、社会へのリジェネレーションを起こすべくこれから行動を共にできる仲間を出会えたことに感謝しております。



各セッションでは、VUCA時代において変革の波を創るリーダーとしてあるべき姿や、なすべきことのヒントとなるテーマについて多岐にわたる視点から計9回の講演を聴講させて頂きました。どの講師の方々からも溢れる情熱、強い信念がひしひしと伝わってきました。それぞれのテーマに沿った講演内容で、リーダーとしての考え方に限らず、実に多くのキーワードやアドバイスをいただき、多くの貴重な気づきを得ることができました。以降、各々の講演について振り返ってみたいと思います。

【東海セッション 8/30～31

邦和セミナープラザ(名古屋)】

◆「チェンジ! 「自慢できる新しい志摩市」を目指して」

志摩市長 橋爪政吉氏

本セミナー最初の講演でしたが、台風襲来により大部分の参加者がwebでの聴衆となりました。しかしながら、志摩市を変えて行くために先頭立って行動をとっている姿が、webを感じさせないくらいに画面越しで伝わってきました。人口減少が進む中でいかに市の魅力を上げられるか、防災/減災に対する取り組みに関しては一人として取り残されないよういかに取り組むかなど大きなビジョンを掲げながら、数えきれないほどの多くの施策を人と人をつなぎながら推し進めていく姿に感銘を受けました。

◆「～VUCA時代の生き残りをかけて～ これからのリーダーシップとは? ビジネス・トランスフォーメーション・リーダーへの変換」

X-TANK コンサルティング(株) 代表取締役社長 CEO

伊藤嘉明氏

講義の最初からリーダーに必要な資質とは何かという問いから

始まり緊張感が漂う講義の中、日本企業の一般的に思われているイメージが海外企業からは全く真逆のイメージでとらえられていることに改めて愕然とする思いを感じました。様々な企業での事業再建を短期間で実現してきた実績から裏付けられた明確なビジョンと行動に感銘を受けると同時に、受講生皆が自分自身の世の中の情報に対するアンテナの低さを思い知らされた気がしました。その中で、私たちの世代は「逃げられない世代」であり、私たちがやるかやらないかを判断し、行動を起こしていかなければならず、「変える」ためにはまず自分が「変わる」ことが必要であることを思い知らされる講義でした。

【湘南セッション 9/27～28

IHIグループ人材開発交流センター I-STEP湘南(横須賀)】

◆「強いチームをいかにつくるか」

静岡ブルーレブズ(株) 代表取締役社長 山谷拓志氏

逆境の中で生きてきた人生について熱い情熱をもって講義されたのが大変印象的でした。栃木ブレックス(現:宇都宮ブレックス)を日本バスケットボールリーグの日本一にするまでのストーリー、つくばロボッツ(現:茨城ロボッツ)にて自ら借金を負っての再建ストーリー、そして静岡ブルーレブズ代表取締役としての中長期に向けた到達点に対する熱い思いを聞き、話そのものだけでなく人間としての魅力という部分において非常に引き込まれました。何よりも「能動力」という言葉に集約される通り、自ら行動する力をしっかりと持ち、「本気」でやるということの重要性を勉強させてもらいました。



◆「ドムドムハンバーガーを絶滅から救った元主婦社長の“挑戦”」

(株)ドムドムフードサービス代表取締役社長 藤崎 忍氏

専業主婦から渋谷109の店員、居酒屋「そらき」の開業そしてドムドムで店員として入社という異例の経歴のお話から始まり、ドムドムの経営状況を知ったことから役員になりたいと嘆願し、代表取締役社長に就任されるという経緯であり、その熱意と行動力のすごさに大変驚きました。ドムドムでの経営改革において一つの行動にあるバックグラウンドとして「コミュニケーション」の重要性に気づかされました。立場は関係なくお互いが自由に話のできる関係性、社員の面白いアイデアを「それいいねっ!」とやっ

てみる感受性とその行動力が非常に魅力的に感じました。また、講義の中では「どむぞうくとなかまたち」の名前の由来話についてもそのユニークさに大いに盛り上がり、印象に強く残りました。



後の懇親会では実践編としてワインの種類と産地を当てる利き酒大会が行われました。残念ながらほとんど当たりませんでした。大変面白かつ深い学びを得た会となりました。



【関西セッション 10/25～10/26

ダイセル西播磨研修センター(相生)

◆「これからの時代に必要な、一人ひとりの強みを活かす組織の秘訣」

武蔵野大学 アントレプレナーシップ学部 学部長

伊藤羊一 氏

アントレプレナーシップ学部という聞きなれない学部と堅いタイトルからどのような話か最初は不安でしたが、お話を聞いていて引き込まれるほど非常に面白い講義でした。アントレプレナーシップ(起業家精神)を持った人材の育成を心掛ける中で、「1 on 1」ミーティングを何よりも大切に、心理的安全性を大切にしつつ個人の才能と情熱をいかに解き放つかという言葉が心を打ちました。来なくなる職場、言いたいことを言い合える職場を形成し、お互いが夢を語り合うことで未来をつくっていくことが変革への波を創っていけないのではないかと思います。



◆「Business Executiveの振舞を学ぶ」

ANAエアポートサービス(株)VIPサービス部マネージャー

上田紀子 氏

VIPサービス部マネージャーとして、国際責任者と務め、皇室の接遇などもなされている経験を踏まえての講義でした。同じメンバーがフライトで一緒になることはほぼないという状況から、短期間でメンバーとコミュニケーションを取り、いかに目標を一つにしてチームワークを形成するかが重要であるかを学び、その一環として受講生みんな笑顔づくりや称賛のストロークの与え方を実践しました。また、ANAファーストクラスのワイン選定に携わるシニアソムリエとして赤ワインに関する講座を聞き、その

◆「笑って学ぶSDGs」

(株)笑下村塾 代表取締役社長 たかまつなな 氏

時事系YouTuberとしてご活躍のたかまつなな氏によるSDGsに関する講座について、ご自身自身が自分の目で見えてきた内容などを通じ、楽しくかつ真剣にご説明をいただきました。未来の子供につけを回さないという強い信念を持ち行動し続けることに対し強い感銘を受けました。講義の途中では、SDGsババ抜きカードゲームも行い、全身でおにぎりを表現する受講生に爆笑しながらもSDGsの意味について学びました。社会をよくするためには一人一人が当事者意識を持つことが大切であり、企業人としても常に大きな社会貢献意識を持ちながら活動することの重要性を学びました。

【幕張セッション 11/22～11/23

クロスウェーブ幕張(千葉)

◆「パーバス経営の実践」

一橋大学ビジネススクール 客員教授、

京都先端科学大学 教授 名和高司 氏

講演タイトルはパーバス経営の実践でしたが、話のほとんどは「イノベーション」とは何か、どのように起こすのかに関しての講義が主でした。どの企業も思い悩んでいる重要な課題に対する考え方として、新規イノベーションである0→1の確率の低さについて、高付加価値と規模感のトレードオフに対して両方を成立させ



る「スマート・リーン」戦略、ずらしの活用など非常にためになる内容でした。既存の事業から1流の人員を抜いて1.5流の人材で耐え、1流の人財には新しい事業の立ち上げメンバーとして生かすという話に関して、変革の波を創る必須のスキームではないかと大変共感を持って話を伺いました。

◆「シン・社会における経営者の夢」

ライオン(株) 相談役 濱 逸夫 氏

「眠れぬ獅子」と言われ続けてきたライオンをどのように事業変革していったかについて、そこでリーダーとしてどのようなことに心掛けてきたのかについてご講義いただきました。新規事業としての飛び地開拓を既存事業の軸をずらしながら行っていったこ



となどの具体的な説明や主力製品であるNANOXの開発にまつわのお話など大変興味深く聞きました。リーダーとして、好奇心、感動の心、感謝の心を忘れない事を学び、働いている方々に対してイグナイター（火付け役）であることの大切さについて学びました。

【最後に】

ご講演いただきました講師の皆様、充実したプログラムをご準備いただいた事務局と世話役の皆様には厚く御礼申し上げます。また、グループ討論で悩みや気づきを共有させていただいた第50期の皆様方にも改めて御礼申し上げます。

4回のセッションを通じて討議時間のみならず懇親会ならびにその後も時を忘れて続く会話を通じ、メンバーがそれぞれに持つ熱い思いを肌でひしひしと感ずることができ、大変思い出深いゼミナルとなりました。50期の方々とは良き同窓として親交を継続し再会することを約束させていただきました。

最後に本ゼミナルが今後も末永く続き、化学業界並びに化学工学に携わる方々の交流と発展に寄与していくことを祈念いたします。

(住友ベークライト株式会社 濱田雄一)